

▼日中友好の親善対局(中国山東省)



突然、囲碁について質問してきて、その後徐々に話してくるようになってきたときは、驚いた反面、進歩があつたとうれしい気持ちになったこともありました。菊元さんが囲碁を始めたのは、中学生の時。囲碁は自分の意思が通じず、相手がどう読んでいるのか分からない。また極めても極めて結論がでない世界に魅

30年以上篤志面接委員として、岩国刑務所で月1〜2回、囲碁の教えを通して受刑者に情操教育を行っているのが菊元さんです。菊元さんが知人の推薦を受け、岩国刑務所の篤志面接委員を引き受けたのは34年前。途中、岩国刑務所が少年刑務所から女子刑務所となったときには、女子に囲碁を指導することに最初は少

し戸惑いを感じたこともありましたが、受刑者には囲碁を通じて、作法・礼儀を重んじながら、集中力や忍耐力などを養い、相手がいるのだから自分の思うとおりにはいかないこともあるということ、個人の性格に合わせて指導をしてきたそうです。何を聞いても全くものを言わず、何を考えているか分からない受刑者が、

力を感じ挑戦し続けました。40歳で中国素人本因坊戦で優勝。43歳の時には九州・沖縄地方、山口県のアマチュア囲碁棋士が熱戦を繰り広げる祐徳本因坊戦でも頂点に立ち、自分でもびくびくするほど負ける気が全くなかったと当時を振り返ります。篤志面接委員以外にも、川西地区の自治会連合会長、自治会長、消防団団長や民生委員なども長年引き受けてきたという菊元さんは「忙しい日々だったが人が好き。仲間と一緒にわいわいするのがいい」と話します。80歳になった菊元さんに、元気の秘訣やこれからの目標を尋ねると「食べることが大好きです。囲碁は仲間作りにもなるし、脳の活性化にもなりますから、これからも囲碁を指導しながら年を取っても自分らしく過ごせるようにしたいと思っています」と穏やかな笑顔を見せてくれました。



囲碁を通して

Vol.64

菊元 五郎さん
(川西在住)

岩国刑務所篤志面接委員。毎月、岩国刑務所を訪問し、受刑者に囲碁を教えている。春の叙勲で公共的な業務に長年従事した人が対象となる瑞宝双光賞を受賞。



▲有段者のための講座の様子



▲子どもを指導する菊元さん(左)

